

6次産業化の取組事例 【群馬県前橋市・渋川市】

1. 地域農業の状況

- 前橋市及び渋川市を含む中部地域は、県中央部に位置しており、平坦地域から中山間地域までの地形条件となっている
- 平坦地域では、その多くが水田地帯で、認定農業者、集落営農組織等基幹的担い手による米麦生産を中心に、野菜生産も積極的に行われている。
- 中間地域では、赤城山南麓を中心に畑地帯の割合が高く、野菜・花きの生産のほか、畜産の割合が高い。
- 中山間地域では、コンニャクを中心とした畑作の割合が高いほか、灌漑用水を活用した露地野菜生産も行われている。また、赤城山麓は、標高200～700mで火山灰土が堆積した水はけのよい土地で、寒暖の差が大きく、夏は涼涼で、霧のまきやすい気候であり、そばの栽培に適している。
- いずれの地域も、担い手の高齢化、後継者不在等による農業従事者の減少のほか、地域生産力の低下や耕作放棄地の増加等が大きな課題となっている。



2. 耕作放棄地再生利用の取組

取組主体	(株)赤城深山ファーム	市町村名	前橋市、渋川市
再生面積	8.96ha	取組年次	平成21年～
作付作物	そば	販路	そば店への直接販売

(1) 取組のきっかけ・経緯

- 都内でそば店を営んでいた経験を持つ農業者は、「100%の素材」にこだわり、赤城山麓で耕作放棄地の再生による高品質のそばの栽培、加工、販売を開始。

(2) 取組内容等

- 当初は、渋川市赤城地区において、そば栽培に取り組んでいたが、前橋市芳賀地区と富士見地区においても、荒廃農地の再生及び低利用農地の借受け、野菜やコンニャク農家との輪作体系により、そばの栽培地を拡大し、平成26年の作付面積は160ha(夏そば70ha、秋そば90ha)となっている。
- なお、栽培したそばは、平成23年度全国そば優良生産表彰事業において、最高賞である農林水産大臣賞を受賞している。
- そば専作栽培による経営を行ってきたが、平成25年2月に法人化し、平成26年2月に6次産業化推進整備事業を活用して加工用機械を導入するなど、6次産業化(そば粉の加工販売)に取り組んでいる。



【解消前】



【解消後】



【収穫作業】

活用した支援策

- H21～ 耕作放棄地再生利用緊急対策交付金(国)(再生活動、土壌改良、営農定着)
- H25 6次産業化推進整備事業(国)(電動石臼製粉機、色彩選別機等)